

Citation: Evans DJ, Cullinan P, Geddes DM, Walters EH, Milan SJ, Jones P. Gold as an oral corticosteroid sparing agent in stable asthma. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010, Issue 4. Art. No.: CD002985. DOI: 10.1002/14651858.CD002985.
CRG名: Cochrane Airways Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 2 September 2010
Clib issue No.; N/U: 2010 issue 11, Update

背景: 慢性重症喘息の患者はしばしば経口ステロイド長期処方に依存性である。ステロイドの使用は重篤な副作用を伴う。このような患者を治療している医師は経口ステロイドの慢性的投与の必要を減じる代替治療を求め続けている。金製剤は免疫抑制薬であり、多数の炎症性疾患の治療に有効性がある。それゆえ、慢性重症喘息の治療において、有効である可能性に関して、およびステロイド節約薬として、有望な有用薬剤であると認められている。

目的: ステロイド依存性慢性喘息患者の治療における経口ステロイドへの金製剤の追加の効果を評価する。

検索戦略: Cochrane Airways Group Specialised Register of trialsおよび同定した論文の参考文献リストを検索した。最新検索日は2010年9月。

選択基準: ステロイド依存性の成人喘息患者を対象として金製剤の追加についてプラセボと比較・検討したランダム化試験。

データ収集と分析: 2人のレビューアが独自に試験の質を評価し、データ抽出を行った。欠損データを得るため研究著者に連絡を取った。

主な結果: 3件の試験が本レビューの選択基準を満たし、合計376例の患者がこれらの研究に集積された。311例の患者のデータを解析できた。ステロイド減量に関して金製剤に小さいが有意な治療効果があった(Petoオッズ比0.51、95%信頼区間0.31~0.83)。全体では金製剤のポジティブな有効性を示す変化をわずかに示したが、肺機能の指標に対してメタアナリシスを行えなかった。金製剤群において蛋白尿(Petoオッズ比1.4、95%信頼区間0.6~3.3)や皮膚炎/湿疹(Petoオッズ比2.1、95%信頼区間0.9~4.7)に関して有害作用を示唆する傾向があったが、有意な変化はなかった。2007年9月と2010年に行われた最新の検索で新しい研究は同定されなかった。

レビューアの結論: これらの試験で観察された変化は小さく、おそらく臨床的な意味は限られている。金製剤の副作用やモニタリングの必要性を考慮すると、喘息におけるステロイド節約薬としての金製剤の使用は推奨できない。

(監訳 尹 忠秀)
翻訳公開日: 2011年7月12日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。